

泉南市 高齢者の生活に関するアンケート調査 報告書（概要版）



本市では、「WA0(輪を)！ SENNANを基礎とした、ともに支え合う活力ある長寿社会～地域共生社会の実現をめざして～」をめざすべき社会像とし、高齢者福祉や介護保険事業を推進しています。

高齢者の生活実態や、自立した生活を送る上での課題、今後の意向等をよりの確に把握し、地域の実態に適した施策を推進していくため、65歳以上の市民の方を対象に、令和4(2022)年11月から12月にかけてアンケート調査を実施しました。

※調査結果の詳細は、泉南市役所ホームページ「ライフイベント -高齢・介護- 一般介護予防事業」に掲載しています。

調査概要

- 調査対象：令和4(2022)年9月30日現在、65歳以上の方で、
 - 65～74歳：無作為に抽出した2,000人
 - 75歳以上：次の方を除いて、全員
 - ①要介護1以上の方
 - ②特別養護老人ホーム、グループホーム、病院等の施設入所者
- 配布件数：9,081件
- 回答件数：7,049件

※アンケート調査結果の構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならないことがあります。



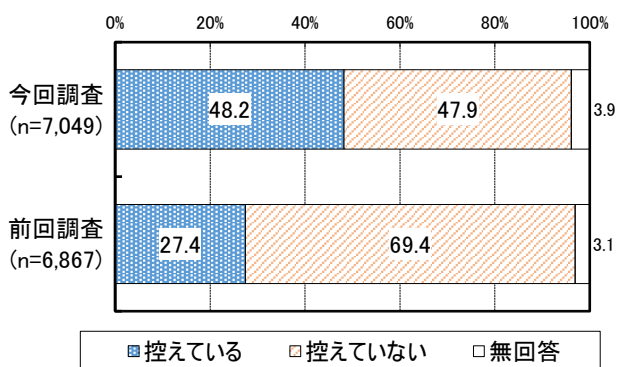
コロナ禍による心身の健康への影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により日々の暮らしの中で変わったこと

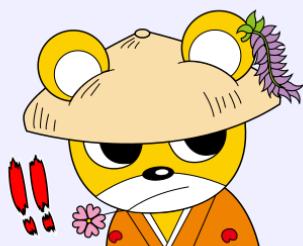
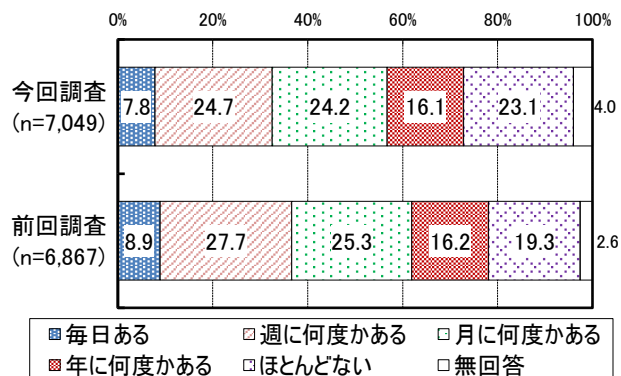
「自分や家族の健康に気を付けるようになった」と半数の人が答えていますが、その一方で「外出を控えたり、閉じこもりがちになった」、「隣近所や地域の人とふれあう機会が減った」、「体力が低下したり、気持ちが落ち込むことが多くなった」などと答える人がかなり多くみられました。

- 1 自分や家族の健康に気を付けるようになった (51.0%)
- 2 外出を控えたり、閉じこもりがちになった (45.6%)
- 3 隣近所や地域の人とふれあう機会が減った (32.3%)
- 4 体力が低下したり、気持ちが落ち込むことが多くなった (22.6%)
- 5 趣味やボランティア活動など、生きがいがづくりの機会が減った (15.0%)

外出を控えているか



友人・知人と会う頻度



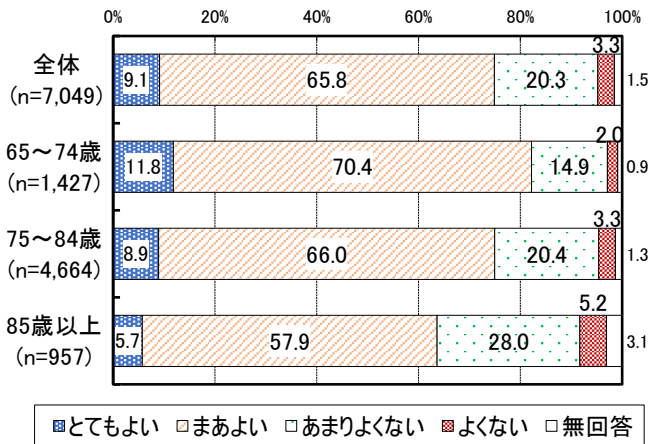
3年前の調査より外出を控えている人が大幅に増加し、友人・知人と会う頻度が少なくなっています。

外出自粛の長期化や生活様式の変化等に伴って、人とふれあう機会や生きがいがづくりの機会の減少、体力の低下やこころの不調、フレイル（虚弱）の進行など、心身の健康への影響が懸念されています。



健康状態や介護予防に関する意識

現在の健康状態



現在の健康状態について 74.9%の人が「とてもよい」「まあよい」と答えていますが、治療中か後遺症のある病気をたずねたところ、高血圧や糖尿病、心臓病、高脂血症（脂質異常症）など生活習慣病にかかっている人がかなりの割合で見られます。

現在不安に感じていることについては、自分の健康が 61.7%と最も多く、健康についての記事や番組に関心があるという人が 88.0%を占めています。

現在、不安に思っていること

- 1 自分の健康 (61.7%)
- 2 介護に関すること (23.5%)
- 3 収入や家計に関すること (21.9%)
- 4 災害に関すること (16.6%)
- 5 生きがい・将来のこと (12.5%)

身体状況の悪化を防ぐために必要だと思うこと

- 1 筋力トレーニング (39.2%)
- 2 他の人との交流 (25.8%)
- 3 入浴 (21.4%)
- 4 みんなで行う体操など (18.6%)
- 5 口腔ケア (18.4%)

健康のために心がけていること

- 1 定期的に病院で診てもらったり、健康診断を受けている (70.5%)
- 2 よく噛むことや口の清潔（歯磨き・うがい）に気をつけている (48.5%)
- 3 週1回以上は体操や散歩・ウォーキングをしている (45.0%)
- 4 栄養バランスの良い食事をするようにしている (44.2%)
- 5 規則正しい生活を心がけている (42.2%)



健康のために定期的な診察や健診を受けるなど大半の人が何らかの内容について心がけています。また、今よりも身体状況の悪化を防ぐために必要なことをたずねたところ、筋力トレーニングや他の人との交流、入浴をあげる人が多く見られました。

このように健康づくりや介護予防に対する関心は高いと思われることから、今後は健康づくりについて得た知識を高齢者自らが実践し、そのことを通じて健康づくりや介護予防につなげていくことが必要です。



生きがいきづくりや社会参加の状況

地域活動への参加状況

- 1 趣味関係のグループ (23.0%)
- 2 町内会・自治会 (18.3%)
- 3 スポーツ関係のグループやクラブ (17.9%)
- 4 収入のある仕事 (14.7%)
- 5 ボランティアのグループ (12.4%)

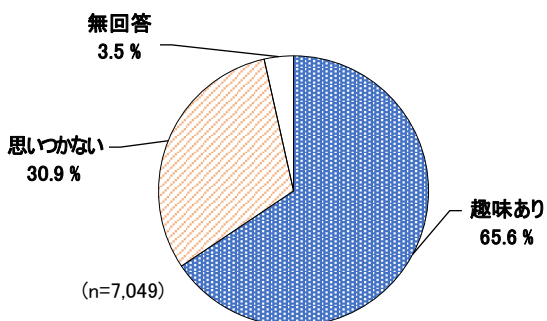
身近な場所で行いたい活動

- 1 みんなで行う簡単な体操 (25.7%)
- 2 趣味の活動 (17.9%)
- 3 茶話会 (15.3%)
- 4 食事会 (14.0%)
- 5 映画鑑賞 (8.1%)

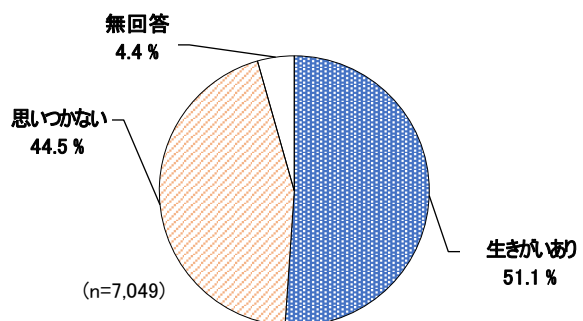
地域活動への参加状況を見ると、参加したことがある活動は多い順に、趣味関係のグループ、町内会・自治会、スポーツ関係のグループやクラブ、収入のある仕事などとなっています。

身近な場所で行いたい活動については、みんなで行う簡単な体操や趣味の活動、茶話会、食事会などをあげる人が多くみられます。

趣味の有無



生きがいの有無



趣味があると答えた人は65.6%、生きがいがあると答えた人は51.1%となっていますが、生きがいについては年齢が上がるにつれて割合が低下する傾向がみられます。

多様な趣味活動に親しむ人がいる一方で、自らの生きがいをたずねられて思いつかない人が44.5%を占めています。また、趣味や生きがいのある人はそうでない人と比べて幸福感が高く、精神的な安定にもつながっていることがうかがえます。

これらのことから、趣味活動や文化・学習・スポーツ活動、ボランティア活動、就労、様々な人々との交流など、多様な社会参加の機会を提供し、高齢者の生きがいきづくりを図っていくことが重要です。





地域における支えあいについて

介護保険サービス以外で利用したいサービス

- 1 外出の手助け (19.6%)
- 2 草取り・庭木の剪定 (17.7%)
- 3 配食 (16.1%)
- 4 買い物 (同行・代行) (15.3%)
- 5 家の中の簡単な修理や電球交換など (15.0%)

近所の人が困っている時に支援できること

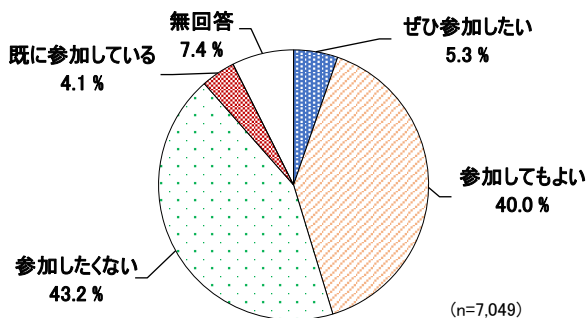
- 1 安否確認や声かけ (48.4%)
- 2 話し相手 (35.0%)
- 3 ゴミ出し (19.4%)
- 4 車での送迎 (14.7%)
- 5 買い物 (14.6%)

介護保険サービス以外で利用したり、今後利用したいサービスについては、外出の手助けや草取り・庭木の剪定、配食、買い物などをあげる人が多くみられます。

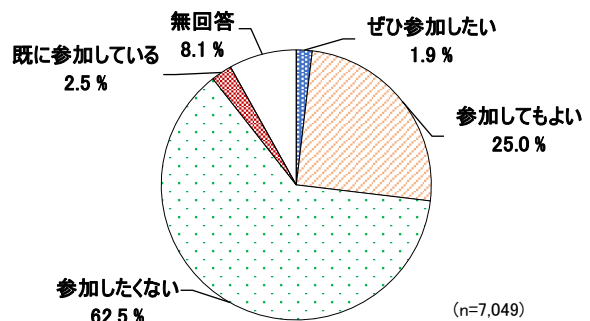
近所の人が困っている時に支援できることについては、安否確認や声かけ、話し相手、ゴミ出し、車での送迎、買い物などの順となっています。

とりわけ女性で「話し相手」、男性では「車での送迎」と答える人が多くみられることから、地域福祉活動の展開等を通じて支援の受け手と担い手を結びつけるような取り組みをより進めていくことが望まれます。

地域づくり活動への参加意向 (参加者として)



地域づくり活動への参加意向 (お世話役として)



健康づくりや趣味等のグループ活動など地域住民による活動に『参加者』として参加する意向を示す人は「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせて49.4%となっています。一方で、『お世話役』として参加意向を示す人は29.4%となっており、62.5%の人は「参加したくない」と答えています。

身近な地域の中のちょっとした取り組みから活動参加者の輪を徐々に広げていくようなアプローチが必要です。現在は参加意向が低い、『お世話役』としての参加者を増やしていき、住民による主体的な活動を育てていくことが望まれます。



在宅療養に関する状況と意識

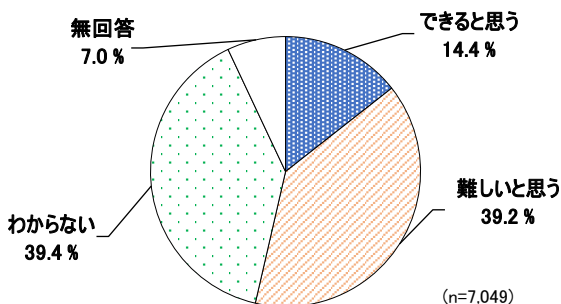
人生の最期を迎えるにあたって希望する暮らし

- 1 自宅で、介護保険サービスを受けて暮らしたい (34.5%)
- 2 自宅で、介護保険サービスを受けずに、家族などの介護を受けて暮らしたい (13.4%)
- 3 「特別養護老人ホーム」などの介護保険施設に入所して暮らしたい (10.5%)
- 4 「有料老人ホーム」や「サービス付き高齢者向け住宅」などの高齢者向け住宅に入居して暮らしたい (8.8%)
- 5 医療機関に入院したい (7.5%)

今後の暮らしについては、「自宅で、介護保険サービスを受けて暮らしたい」が34.5%、「自宅で、介護保険サービスを受けずに、家族などの介護を受けて暮らしたい」が13.4%となっており、在宅生活の継続を望む人が多くを占めています。

しかし、自宅で療養しながら、最期まで過ごすことができると思うかたずねたところ、難しいと思う人が39.2%となっており、その理由として介護してくれる家族に負担がかかると答えた人が82.7%を占めています。

自宅で療養しながら最後まで過ごせると思うか



介護保険サービスに対する印象

- 1 家族の介護負担を減らすもの (65.4%)
- 2 自宅で暮らし続けるためのもの (43.0%)
- 3 健康な生活の維持、悪化防止のためのもの (32.4%)

介護保険サービスに対する印象は、「家族の介護負担を減らすもの」が65.4%と最も多く、年齢が若いほど割合が高くなっています。これに次いで「自宅で暮らし続けるためのもの」が43.0%、「健康な生活の維持、悪化防止のためのもの」が32.4%となっています。

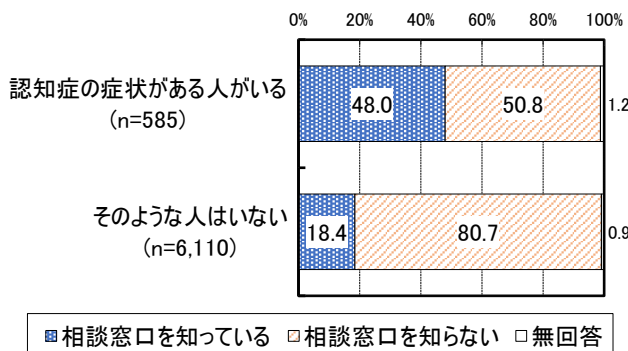
こうしたことから、今後とも利用者ニーズを的確に見極めつつ、介護保険サービスや高齢者福祉サービスの質的・量的な充実に引き続き努めていくとともに、地域における見守り、助けあいの取り組みをより促していくことが重要と考えられます。





認知症に関する状況と意識

認知症の症状の有無と相談窓口の周知度



認知症になった時にあればよいと思う支援

- 1 相談窓口や病院、介護サービスなどの情報が簡単に収集できる仕組み (66.0%)
- 2 早く発見できるように健診などを充実する (35.3%)
- 3 認知症の人が地域で暮らすための生活支援サービス (30.1%)

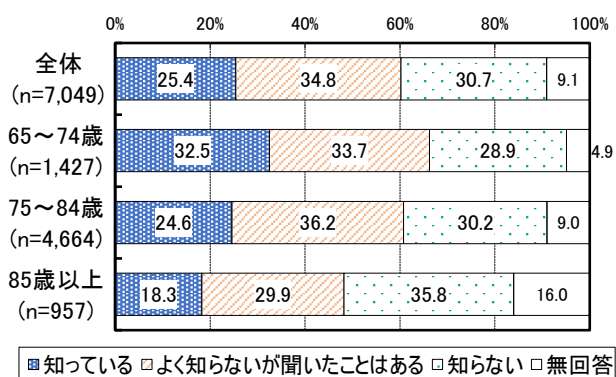
認知症に関する相談窓口を知っている人は20.2%で、本人か家族に認知症の症状がある人では48.0%にとどまっています。また、本人か家族が認知症になったときにあればよいと思う支援として「相談窓口や病院、介護サービスなどの情報が簡単に収集できる仕組み」や「早く発見できるように健診などを充実する」、「認知症の人が地域で暮らすための生活支援サービス」をあげる人が多くみられます。

高齢者が地域で安心して暮らせるよう、認知症に対する正しい理解の普及や相談窓口の周知、社会資源の充実に引き続き努めるとともに、地域ぐるみで本人・家族を支えていくような体制づくりが今後改めて必要となります。



権利擁護についての意識

成年後見制度の周知度

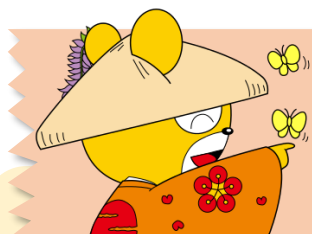


お金の管理や各種契約の管理

- 1 家族に金銭管理や契約をしてほしい (76.1%)
- 2 市役所に相談する (4.8%)
- 3 弁護士や司法書士等の専門職にお願いする (1.8%)

成年後見制度を知っている人は25.4%、よく知らないが聞いたことはあるという人が34.8%となっており、将来、自分で金銭管理や契約行為ができなくなったときの対応については、家族に金銭管理や契約をしてほしいという人が76.1%を占めています。

このため、引き続き制度の周知、利用者の増加に応じた体制づくりを進めていく必要があります。



高齢者の心配ごとの総合相談窓口

泉南市地域包括支援センター

高齢者のみなさまが、住み慣れた地域で健やかに暮らせるように、介護・福祉・健康・医療等に関する、さまざまな面から支援を行います。



さまざまな相談に対応します！

介護、福祉、健康、医療に関する悩みや相談にお応えします。



自立した生活を送る支援をします！

身体状況が悪化しないよう、相談する方の状況にあった介護予防サービスをご紹介します。



みなさんの権利と尊厳を守ります！

みなさんの権利を守るため、成年後見制度の提案や消費者被害などに対応します。



多方面からみなさんを支援します！

より暮らしやすい地域づくりのため、さまざまな機関とのネットワークづくりを行います。

泉南市地域包括支援センター なでしこりんくう（電話：072-485-2882）

【所在地】〒590-0535 泉南市りんくう南浜3番7号

【担当地域】樽井、男里、幡代、馬場、りんくう南浜、鳴滝、中小路、北野、岡田、国道26号より北西（海側）の信達市場または信達牧野

泉南市地域包括支援センター 六尾の郷（電話：072-484-8668）

【所在地】〒590-0514 泉南市信達金熊寺130番地

【担当地域】新家、兔田、別所、信達大苗代、信達金熊寺、信達童子畑、信達楠畑、信達葛畑、信達岡中、信達六尾、国道26号より南東（山側）の信達市場または信達牧野

泉南市令和4年度 高齢者の生活に関するアンケート調査 報告書（概要版）

発行：泉南市 福祉保険部 長寿社会推進課

〒590-0592 泉南市樽井一丁目1番1号

電話：072-483-8254

発行年月 令和5年3月